

4. 主な除草剤の特徴と使用上の注意

処理箇所	薬名	分類コード	人畜毒性	特徴と使用上の注意
土壌	ゴーゴーサン乳	3		雑草の生育が進むと薬剤の効果が劣るので、使用時期を失ないように散布する。イネ科及び一年生雑草には効果があるが、キク科とツククサには効果が劣る。播種後に使用する場合は種子が露出しないように、覆土は丁寧に行う。
	トレファノサイド乳	3		トンネルやハウス栽培の畝間土壌表面散布では薬剤が気化して薬害の恐れがあるので、使用にあたっては特に注意する。
	ロックス水	5		すでに発生している雑草には効果が劣るので、雑草発生前～発生始期に使用する。ネギ、セルリー、ヤマノイモに薬液がかかると薬害を生じる恐れがあるので、作物にかからないように注意する。雑草が発生しているときは、非イオン系界面活性剤を加用する。砂土では使用しない。
	ラッソー乳	15		土壌処理剤なので必ず雑草の発芽、発生前に使用する。イネ科雑草には効果があるが、タデ科などの広葉雑草には効果が劣る。
茎葉	タッチダウンi Q(液)	9		非ホルモン型吸収移行性で、茎葉部から吸収されて植物体内を移行し全体を枯死させる。効果の発現は遅効的で、一年生雑草では2～4日、多年生雑草で1～2週間を要する。展着剤は不要。作物に薬液がかかると薬害を生じるので、作物にかからないように注意する。
	ラウンドアップマックスロード(液)	9		非選択性吸収移行性で、吸収は緑色茎葉部、緑色樹皮及び活性のある芽などから行われる。効果の発現は遅効的で、1年生は2～4日で効果が現れ、5～10日で枯死する。多年生では2～4日で効果が現れ、15～30日で枯死する。土壌中では直ちに不活性化し微生物で分解される。展着剤は不要。
	サンダーボルト007(水)	9・14		グリホサートを含む混合剤で、即効性と持続性を持つ。一年生雑草(ヤエムグラ、スベリヒユ等)や多年生雑草(タンポポ、コヒルガオ、ハマスゲ等)に効果が高い。
	ザクサ液	10		a 非選択性茎葉処理剤。茎葉から吸収される。散布2～3日で枯れはじめ、7～10日で枯死し、40～50日程度再生を抑える。土壌中では微生物によって速やかに分解される。
	バスタ液	10		非選択性茎葉処理剤。茎葉から吸収され速やかに植物体内を移行する。散布後2～5日で兆候が現れ7～14日ほどで枯死する。土壌中では微生物によって分解され、根部からの吸収がないので、すぐに後作物の播種定植ができる。

除草剤使用指針

処理箇所	薬名	作用機構 分類コード	人畜 毒性	特徴と使用上の注意
(茎葉)	レグロックス液	22	劇	非ホルモン型接触性除草剤。茎葉処理により植物体に急速に吸収され、効果の発現も早い。特に広葉雑草に効果が高い。土壤に接触すると直ちに不活性化するので、散布翌日からでも作物を播種、植付できる。
土壌・茎葉	ダイロン(水)	5		非ホルモン型で、茎葉や根から吸収される。土壌散布を主体とする。茎葉散布の殺草力は小さいので展着剤を加用する。
	ハイパー X(水)	5		非ホルモン型、移行性で根から吸収される。茎葉接触効果もある。広葉やイネ科の一年生及び多年生雑草に効果が高い。効果の発現は1～2週間で遅効性。温州みかん及び緑地管理場面に優先する広葉やイネ科の雑草に対して一年生、多年生を問わず効果を發揮する。
	バックアップ粒	5		非ホルモン型で、根から吸収される。多年生のササ、ススキ、セイタカアワダチソウなどにも効果が高い。効果の発現は遅効的で3週間以上かかり、4～6ヶ月の残効性があるので、年1回の散布で十分である。
	ハービック粒	5		土壌散布により根から吸収される。効果の発現は遅効的である。残効期間は長く、長期間発生を抑える。
	アージラン液	18		非ホルモン型吸収移行性で、茎葉部及び根部から吸収されて生長点に移行する。効果の発現は遅効的で徐々に根まで枯らす。スギナ、ワラビ、ギンギシ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草にも効果がある。ヒユ科、アカザ科、カヤツリグサ科やザクロソウ、ツユクサ、ギョウギシバには効果が劣る。
	クロレートS粒	0		非選択性、接触型除草剤で、酸化作用により植物を枯殺する。散布適期は新葉が展開し始めた時期で、生育が進むと効果が劣る。